

Hallo! にちらん

“Hallo!” はオランダ語のよびかけのことばです

● ● ● 2024(令和6年)7.1

主催事業のご報告・ご案内

オランダ事情講演会参加者募集 「広場の少女、アンネ・フランク」 —アムステルダム ユダヤ人の近現代史—

会報前号にて事前予告いたしました。今回、千葉大学法政経学部教授、水島治郎先生をお迎えし、ご講演いただきます。EUにおいて国土の狭いオランダは、寛容の国といわれ、あらゆることに進歩的です。そこでのアンネは、隠家に移る前、広場でどんな少女時代を過ごしたのでしょうか。アムステルダムにおけるユダヤ人の近現代史を含め、アンネの生き生きとした本来の姿を伺い知る機会になることと思います。ご家族・ご友人お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

講師：水島治郎先生(千葉大学法政経学部教授
法学博士)

日時：8月3日(土)14:00~16:00

会場：佐倉市立美術館！…GC' 4F ホール

定員：90名(要申込・先着順)

対象：会員・一般

参加費：200円

申込受付：7月1日(月)より

申込・問合せ 佐倉市文化課(043-484-6191)

総会報告

令和6年度総会を4月27日(土)に市役所社会福祉センター3階会議室に於いて開催し、会員、理事、顧問、参与の皆様計28名の出席がありました。前年度の事業・決算報告案、新年度事業計画・予算案についてご審議いただき、無事に承認を頂くことが出来ました。総会後には多くの皆さんと茶話会を催し、近況報告や情報交換等で楽しい時間を過ごしました。活動を取り巻く環境も次第に制限が解除され、自由な活動が戻ってまいりました。長いコロナ禍でしたが、皆様のご理解とご協力により、活動を継続することが出来たことに感謝いたします。新年度は4月初めの風車まつりから東京

散策会、総会と順調に実施してまいりました。有意義で楽しい活動のためにも、会員皆様のご要望やアイデアをお待ちしています。今後とも皆様のご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

【会長 山岡みち代】

南足柄市姉妹都市交流協会より 交流の感想をいただきました

富士フィルム株式会社発祥の地である神奈川県南足柄市は、オランダ・ティルブルグ市にも工場を持つ同社のご提案によって、1989年6月に同市と姉妹都市提携を締結しました。南足柄市姉妹都市交流協会(MSCA)は、この締結に先駆けて同年4月に設立され、以来、35年にわたり交流団を派遣し合うなど、親善を深めています。

4月4日、「協会役員・地区委員研修会」として、15名が「佐倉チューリップフェスタ2024」を訪問し、佐倉日蘭協会・山岡会長さんをはじめ役員の皆様のご丁寧なご案内の下、現地を視察しました。

当日は天気も良く、佐倉市市制施行70周年に因んだ70万株のチューリップが咲き誇り、本格的な風車と共に我々を迎えてくれました。

視察後は、佐倉市役所に場所を移し、それぞれの協会が抱える問題や今後の在り方等について意見交換を行い、充実した研修会となりました。

今後も、互いの協会の更なる発展を目指し、継続的に交流を深めていきたいと思っております。

【南足柄市姉妹都市友好協会】



第12回風車まつりを開催しました

4月6日(土)・7日(日)の2日間、佐倉市・佐倉市観光協会(公社)主催「佐倉チューリップフェスタ2024」の協力団体として風車まつりを開催しました。両日とも朝方の雨を心配しましたが、少し肌寒い曇り空の中、風車内の展示、風車前では、当協会会報、入会案内、風車ぬり絵、風車クイズ等の配布にたくさん関心を持っていただきました。

5年ぶりに三角広場では、男性会員・事務局員による木靴体験の楽しい勧誘案内、またテント内で

のチーズ・ワフル販売も完売し、風車クイズ回答者へのチューリップかざぐるまプレゼントは好評で、市内外、インバウンドによる外国人の来場者など、たくさん立ち寄っていただきました。3歳くらいの女の子が、頭から靴までミッフィの装いでプレゼントの赤いチューリップのかざぐるまをもって楽しそうにしていたのがとても印象に残りました。チューリップかざぐるまを紹介していただき、また当日も羽の多いかざぐるまの配布をしてくださった「お〜いあそぼうかい」に感謝いたします。来年も魅力ある風車まつりを開催する予定です。

【事務局 若宮陽子】

風車まつりに参加して

佐倉チューリップフェスタ期間中の、4月6日・7日に開催された風車まつりに参加しました。天候にも恵まれ、青空の下のオランダ風車とチューリップがとても綺麗でした。イベントでは、オランダ風車「リーフデ」の中を見学したり、風車に関するクイズで新しい発見がありました。クイズに参加していただいたチューリップのカザグルマもとても可愛かったです。オランダ木靴は思ったより軽くて履きやすかったです。また、オランダのチーズやお菓子の販売もあり、購入して家で食べましたが本当に美味しかったです。

風車まつりのお手伝いをするようになったきっかけは、今秋にオランダに住む30年来の友人宅に遊びに行くことになり、1〜3月のオランダ語講座を受講したことです。どちらもとても貴重な経験でしたが、これで終わらずもっとオランダやオランダ語について楽しく学んでいきたいと思いました。

【会員 種村香代子】

オランダ・蘭学ゆかりの地巡り 第21回 東京散策会(報告)

第21回東京散策会を4月22日(木)に実施しました。当日は早朝からの小雨と半蔵門線の遅れにも拘わらず若干の遅れで全員集合し10時25分最初の目的地「青山学院」へ向けスタートしました。

今回は、午前表参道駅に近い青山学院を訪れ、午後は表参道駅の次の外苑前駅近くにある青山霊園の探墓という行程で、参加者は29名(男12名・女17名)と、当初見込んだ25名を超える参加人数となりました。史跡説明は当協会の外山理事中心に行われ、青山学院では本年創設150年を迎えた学院の歴史や、歴史ある建物紹介など平易な解説を頂き、青山霊園では佐倉藩ゆかりの蘭学関連の人々が眠る墓所を探墓し興味あるお話を伺いました。

今回の感想を何人かの参加者に伺うと、創設時の青山学院と津田仙の関わりが学べた、青山霊園

という名は知っているが実際に訪れたのは初めて、霊園で瓜生繁子の墓所も訪れ嬉しかった、コロナ禍で延期されていたこのコース再開が嬉しかった等々、大変好評でした。

また、津田道夫氏・当協会の大沢参与からも説明を頂き深く感謝いたします。青山学院資料センター・ベリーホール礼拝堂の皆さまにも大変お世話になりました。当日は途中から雨もあがり歩きやすく、多くのことが学べた東京散策会となり、3時頃無事終了しました。 【事務局 八田幸男】



オランダ・蘭学ゆかりの地巡り 青山学院 間島記念館前で 2024.4.22

オランダ・蘭学ゆかりの地巡り

久しぶりの夫婦での都心巡りでした。ふるさと広場で誘われ、外山先生の解説付きと伝えられ惹かれて応募しました。最初は佐倉藩出身の津田仙らが建学に尽力した青山学院。間島記念館で歴史資料やビデオにてゆかりある人達の記録や学校史を学び、建学150年を振り返り、「蔦の絡まるチャペル」ではパイプオルガンを見つめ、歌声と歌詞に連なる情景を思い浮かべ暫し外観を眺めた。学食では人気のトンカツでコスパと味に満足し、礼拝堂ロビーでは学生の過ごし方も垣間見られた。

高野長英隠れ家跡記念碑では先達の味わい深い説明を拝聴し、地下鉄で一駅の青山霊園に向かう。ここは喧噪から遮断された静謐な空間だ。佐倉ゆかりの方や有名人の墓が整然と佇む。ご時世からか無縁と思しき墓所も散見された。帰り道の一隅にあった手入れよい乃木希典家の墓誌に目を凝らし家路に向かった。

この企画では佐倉の一端に触れ得るしっとりとした時間を過ごせました。感謝申し上げます。

【会員 小西修平】

チューリップ球根掘り取りを行いました

5月19日(日)午前10時より事務局員3名によるチューリップの球根掘り取りを行いました。昨春秋、チューリップ友の会会員として、ふるさと広場指定場所に植え付けた120球の「オレンジブリアント」は、昨年夏の猛暑により球根がオランダから

の輸送で一部開花不足となってしまいました。今回は一面に咲いてくれることを願うばかりです。

【事務局 関とも子】

佐倉市に3台の オランダストリートオルガン

佐倉ハーモニーホール(佐倉市民音楽ホール)内に、大・中・小3台のストリートオルガンがあります。

事の起こりは、今から37年前、1987年春、佐倉市は佐倉日蘭協会を設立し、その年の秋、設立記念に「オランダ・ユトレヒト国立自動演奏楽器博物館所蔵、音のアンティーク展～オルゴールからストリートオルガンまで～」を開催しました。この展示会は演奏もあり大変好評だったため、佐倉に是非1台ストリートオルガンが購入できないかという市民の要望もあり、オランダ王国大使館の協力により1988年6月には特別注文の中型のストリートオルガン「SAKURA」が届きました。



ストリートオルガンは、ほとんど手作りのため、普通は完成までに1年近くかかりますが、この「SAKURA」はオランダ王国大使館の格別の協力と制作者が製作中の1台を佐倉市用に変更してくださったので、注文から6カ月で佐倉に届きました。この時、成田の税関職員がストリートオルガンという楽器が理解できず、しばらく倉庫に留め置かれたため、倉庫料等を伊東部品(株)とオランダ家が、輸送には日本貨物航空(株)のご協力がありました。また翌1989年7月には、日蘭修好380周年を記念して千葉銀行から小型のストリートオルガン「ヴェーニンゲン」(制作者名)が寄贈され、さらに10月にオランダ国立自動楽器博物館、館長の紹介により100年前に製造された大型のストリートオルガン「サーター」が常盤植物化学研究所の協力もあり佐倉市に届きました。

これら3台のストリートオルガンは、毎月ハーモニーホールで演奏会が開催されており、次回は7月13日(土)11:30～と予定されています。3台の詳しい情報は次回の会報でご案内できればと思っています。佐倉市以外にストリートオルガンは、山口県周南市、埼玉県川口市、茨城県古河

市他、個人蔵を含め各地にあるようですが、大・中・小3台あるのは佐倉市だけだと思います。

【事務局 関とも子】

オランダ関連情報

第11回世界パラ陸上選手権大会(5月17日～25日 於:神戸総合運動公園)に出場のオランダナショナルチームの事前キャンプを千葉県が受け入れ、5月12日県総合スポーツセンター陸上競技場にてオランダ選手団と県民の交流イベントを行いました。

寄稿・アムステルダム時代の 思い出(2回目・最終回)

マエストロ小林とテノール歌手失踪事件

ゴッホ美術館から、また、少し離れたところにクラシック音楽の殿堂コンサートヘボウがある。威容なファサードが特徴の建物で音響効果は抜群であった。当時の常任指揮者は、ベルナルド・ハイティンクであったが、岩城宏之や小林研一郎なども時々指揮をとっていた。



コンサートヘボウ

ここで忘れられないのは、「小林研一郎の第九交響曲とテナー歌手失踪事件」である。それは1980年5月のことであるが、ベートーベンの第九公演会の当日、イギリス人のテノール歌手は、近くのホテルを出た後、行方不明になり、現れなかった。止むを得ず演奏を開始し、いよいよ第四楽章のテノールの独唱場面になると、小林自身が歌い出した。やがて、彼の目に涙が浮かび、頬を濡らした(注)。これを見かねた合唱者と楽員は、おのこの歌いはじめ、それにつられて聴衆も唱和した。このようにして第九の公演は終わった。会場は総立ちになって興奮のるつぼと化し、ブラボーの歓声は止めどなく続いた。その場にいた聴衆の一人として、感動のあまり、茫然自失となり、しばらく、そこに立ちすくむのみであった。

(注)コンサートヘボウには、ステージの後ろ側に客席があり、指揮者の表情が見える。

デ・パンゴ
ルフ場は、ユトレヒト郊外の伝統ある森林コースである。取引先の代表者とラウンドするため、自ら



デ・パンゴルフ場

運転してゴルフ場に向かい、クラブハウスに到着すると、追走してきた二台の車から、クラウス殿下と二人の王子が付き添いの人とともに降りてこられた。殿下と二人の王子は直ぐスタートされ、われわれは、そのあと二組目にティーオフした。ラウンドを終えてシャワーを浴び、ベランダへ出ると、殿下たちはワインを飲んでおられた。次男のフリーズ王子は、われわれのところへ来て、

“I’ve got a hole in one on the 3’ d hole.

How about some wine.”

と言われた。わが方は、

“Congratulations”

を連発した。

“Thank you very much. I’m so happy.”

と言われながら、王子はワインを注いで下さった。ワインは、フルーティーで芳醇な、白の上物であった。その後、日本のことやゴルフのことを話し合い、ベランダはちょっとしたパーティになった。やがて、ご一行は帰られる時、われわれにそれぞれ一本のワインを下さった。それは、極上の「シャブリ・グラン・クリュ」であった。

時はずっと下るが、残念なことに、クラウス殿下は病気で 2002 年に、ホールインワンをされたフリーズ王子はスキー事故で 2013 年に、亡くなられた。下さったワインは、後に頂いたが、その時の王子のあどけない顔が目に浮かび、辛口のワインは、心なしかほろ苦かった。

銀行の顧問から、オランダの歴史と黄金時代について、話を聞いた。

オランダは、古くはローマ帝国時代にジュリアス・シー



俯瞰アムステルダム

ザーに侵略され、

中世には、オーストリアのハプスブルグ家とスペインのブルボン家の統治下におかれた。近世では、フランスとイギリスの戦いに敗れ、第一次世界戦争は中立だったが、第二次世界大戦では、ドイツに占領された。この百敗のオランダが、17 世紀に黄金時代を築いたのは何故か。その要因は、まず、カトリックの戒律の厳しいスペインと長年にわたり独立戦争を戦い、それに勝利して、宗教的に自由なプロテスタント国家を樹立したことである。このため、他の欧州諸国から裕福なプロテスタントやユダヤ人たちが、こぞって移住し、彼等は資本を出し合って、近隣諸国やアジアと交易をはじめ、巨万の富を得た。これにともなって、科学や芸術などの分野でも、隆盛を極め、黄金時代となった。この話を聞いている時、17 世紀初頭のデ・リーフデ号漂着以来、鎖国時代から幕末、明治維新にかけて、オランダから、欧米の文物について、多くのことを学び、かつ、指導してもらったことを想起し、その恩義は決して忘れてはならない、と強く思った。

いよいよ任務を終え、帰国の飛行機が、スキポール空港を離陸すると、やがてアムステルダム市街が俯瞰できた。そこで出会った人々、起こった出来事など様々なことが、脳裏に浮かんだ。そして、心の中で、“Dank u wel.”を繰り返し、アムステルダムに別れを告げた。この多彩で特異な都市での想い出は、このように、今なお懐かしく、ビビッドに蘇ってくるのである。 【会員 合田盛文】

* オランダ関係のイベント情報、ニュース等ございましたら、メール・FAX等で下記問い合わせ先までお知らせください。

特別会員（敬称略）

岡村美智子

(株) 小川園

(株) オランダ家

(株) 木村屋

(株) クリケット

佐倉厚生園

(社) 佐倉市観光協会

佐倉商工会議所

佐倉社中合同会社

佐倉順天堂医院

(株) 村山ツーリストビューロー

佐倉ライオンズクラブ

佐倉ロータリークラブ

鈴木金物(株)

田中育子

千明 (CHIGIRA, M)

DIC 川村記念美術館

塚田雅二

日本電気商会

富士測量設計(株)

宮北英志



佐倉日蘭協会

〒285-0037 佐倉市本町 81 佐倉順天堂記念館

普通会員 1 口 2,000 円 / 特別会員 1 口 5,000 円

* 新規会員募集中 詳細は下記問い合わせ先へ

事業参加申込 ・ 問い合わせ

佐倉市魅力推進部文化課

文化振興班 佐倉日蘭協会担当

〒285-8501 佐倉市海隣寺町 97

TEL . 043-484-6191

FAX . 043-486-9401

e-mail : bunka@city.sakura.lg.jp

ホームページ 「genki 佐倉日蘭協会」で検索